

第2回王寺駅周辺再整備推進会議を開催しました（令和3年1月28日）

王寺町では、平成30年5月に策定した「王寺駅周辺地区まちづくり基本構想」に基づき、駅北エリアについては、防災機能の強化及び魅力の向上、駅南エリアについては、民間活力を活かした拠点機能の集約・向上など、目指すべきまちの姿の実現に向けた検討を進めています。

令和3年1月28日に第2回王寺駅周辺再整備推進会議を開催しました。

※新型コロナウイルス感染拡大により大阪府、京都府に緊急事態宣言が発令されていたため、WEB会議で開催しました。



王寺駅北側ロータリーと県道王寺停車場線

テーマ | 駅北エリアのまちづくりの方向性

第1回会議の意見を踏まえ、事務局で「王寺駅北エリアのまちづくりの方向性（案）」を作成し、参加者に意見を求めました。

主な意見

<まちづくりの方向性について>

- ・歩いて暮らせるまちなか形成やにぎわい形成の視点も盛り込まれており、方向性としては概ね良いと思われる。
- ・コロナの影響で身近なオープンスペース（広場）の重要性が高まっている。自宅近くのコワーキングスペースで働くニーズも高まっており、そうした要素を入れたのは良い。
- ・緊急車両が入れるよう道路拡幅は最優先で行うべき。
- ・まちは回遊性が重要であり、駅と近隣の店舗・商業施設とも連携しながら、人の流れを作るのがよい。
- ・既にマンションが何棟か建っているが、既存住宅は低層のものが多く、平屋・2階建が多い。そのような中で、新たに15～31mの建物が建つエリアを設けるとかなり高い印象。
- ・地区のポテンシャルを上げているのは、王寺駅だけではなく、すぐ近くにある大和川。歩行者用の橋梁もあり、これらを生かしていく必要がある。
- ・王寺停車場線は朝夕に渋滞するので、道路整備と併せて渋滞対策が必要。駅前ロータリーはバス、タクシー、一般車が込み合うため、改善が必要。

<その他>

- ・地区内に歴史的な建造物があるが、今のままではマンションや駐車場になったり、まちのアイデンティティーが失われていく懸念がある。
- ・道路整備を行うとすぐにマンションが建つので、規制をかけてから事業に入らなければならない。
- ・今後の社会変化に対応できるよう、まちの成長にあわせて計画を柔軟に変えていけるような仕組みとするのが良い。
- ・今後は人口も世帯も減ってくるため、事業の時間軸が重要。まちづくりを考えるときに、5～10年のどうするかを考える視点と、30～50年先にどういうまちを目指すのかという視点を分けて考えなければいけない。



松浦家住宅（登録有形文化財）



大和川ふれあい広場と若草橋